

科目名	哲学			担当教員	森 正幸		
学年	全学科 4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	09G04_20300	単位区別	履修単位
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発達に起因する負の影響など、諸問題が山積している。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底していることが極めて現代の特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	個体発生は系統発生を要約して繰り返す（ヘッケル）と言われるように、個人の精神史と世界のそれとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲学と時代を考察する。（時代を生きること 哲学と人生）						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.個人史としての哲学（哲学概説）	（4）		自己を形成している精神内容を見つめる眼と他者理解の態度を涵養する	A1:3		
	2.現代世界の諸問題と哲学	（6）		世界の諸問題と世界内存在としての自己	A1:4		
	3.哲学知のさまざまな在り方	（4）		さまざまな知的在り方があること理解する	A3:4		
	4.西洋哲学史「ソフィーの世界」を主な題材として 神話 自然哲学 運命 ソクラテス プラトン アリストテレス 神学	（10）		歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し、時代の役割を果たした事を知る	A1:3		
	5.哲学と人生（ストア学派）	（5）		境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする	A1:4		
	6.前期期末試験	（1）					
	7.試験問題の解答	（1）					
	8.哲学と科学的思考 デカルト ベーコン パスカール スピノザ ライプニッツ カント ヘーゲル など	（10）		哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産出した西洋哲学の特性について考える	A1:3		
	9.現象学と人間諸科学	（5）		哲学の一形態である現象学が何故、成立したのか、考察する	A1:3		
	10.総合知	（3）		混迷の度を深める現代世界、総合知・世界観としての哲学の重要性を知る	A1:3-4		
	11.世界観としての哲学	（3）					
	12.Philosophy と哲学	（3）		世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは何か…	A1:3-4		
	13.東洋的形而上学	（3）					
	14.学年末試験	（1）					
	15.試験問題の解答と授業評価アンケート	（1）					
評価方法	定期試験を主たる評価とし、小論文と平常点（出席率、授業態度）を加味する。 意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。						
関連科目	なし						
教材	教科書：なし 参考書：ヨーステン・ゴルデン著「ソフィーの世界」NHK 出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「現代哲学」同上						
備考	テーマによっては映像を使用することもある。						

